

SOCIUS

No.15

2020

[ソシアス]

仁愛女子短期大学 総合学務センター 入学・地域支援課

1. はじめに	
・ポストコロナ社会に求められるCSR(College Social Responsibility)を……	内山 秀樹 2
2. 自治体等との連携事業(福井市・永平寺町・森田地区)	
・リアルローカリズムCM作成プロジェクト ……………	澤崎 敏文 3
・令和2年度 保育研究合同発表会 (福井市・仁愛女子短期大学幼児教育学科 合同発表会) ……………	増田 翼 4
・えい坊君と、町の花 梅をデザインしました。 ……………	西畑 敏秀 6
・「Morebi」 再生～森田駅をミニ美術館に(もりた夢駅～冬物語2020) ……………	内山 秀樹 7
・自治体と仁愛女子短期大学との連携事業報告 ……………	入学・地域支援課 8
3. 図書館の活動報告 ……………	竹下 真弓 9
4. 福井市男女共同参画・子ども家庭センター	
・令和2年度報告 福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室 ……………	野路 昌美 11
5. 教員・学生の社会的活動報告	
・《おすそわけマスク》の配布 ……………	前田 博子 15
・「木づかい体験会」への参加 ……………	香月 拓 16
・季節感あふれる壁面製作 …………… (松川ゼミ)	上中和香奈 17
6. 令和2年度 総合学務センター 入学・地域支援課活動報告	
・教員の地域活動一覧 ……………	18
・教員免許状更新講習 ……………	20

※敬称略

はじめに

ポストコロナ社会に求められる CSR (College Social Responsibility) を

総合学務センター長 内山 秀樹

2020年度は“新型コロナ”で始まり、新型コロナで終えた一年でした。地球上の全人類が目に見えぬウィルスの脅威に晒され、日常生活の多くを制限せざるを得ない状況に陥りました。このような地球規模での同時多発的脅威は、人類史上氷河期突入以来の経験ではないかと思えます。

本学におきましても、昨年度の卒業式と今年度に入ってから入学式の中止、前期授業はオンラインによる1ヶ月以上遅れてのスタート、6月オープンキャンパスをはじめとする一連の学生募集活動もオンライン対応を余儀なくされました。

本学の CSR に関しても大きな影響をもたらし、対面での公開講座は全て中止、教職員や学生の社会的活動も大幅に自粛せざるを得ない状況でした。

このような中でも、自治体等との連携事業については、予定されていたものは概ね実施でき、保育者養成施設としての社会的使命を有する教員免許状更新講習についてはオンラインに切り替えて実施し、福井市子ども家庭センターの運営についてもその使命を果たすことができました。これもひとえに多くの困難に取り組んでいただいた教職員の皆様の多大なご苦勞とご参加いただいた方々のご理解とご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

さて、昨年非常事態宣言が発令された頃は、年明け、遅くとも新年度には収束の兆しが見えるのでは？と楽観視していたわけですが、予想に反して今年3月末時点で第4波の兆候が顕著になり、全く余談を許さない状況にあります。

コロナ禍の影響は数年スパンで私達の生活や社会活動に影響を及ぼし、私たちのライフスタイルや社会経済活動をも大きく変えつつあります。その一つが DX (デジタルトランスフォーメーション) の進展です。その

代表的なものとしてのオンラインコミュニケーションツールはこの1年で爆発的に進展し、世界中に定着しつつあり、コミュニケーションや情報共有・発信の方法が劇的に変わろうとしています。

このことは、生涯学習や地域づくりにも大きな変化をもたらし、本学の CSR にも大きく影響します。特に昨年度中止せざるを得なかった公開講座を中心とする集合研修や講座についてはその形式や内容のみならず対象者も含めて根本的な見直しが必要と考えます。オンラインや動画の活用如何によっては、これまで考えもしなかった県外、国外の方の参加も可能になるわけで、時空を超えて繋がり、知的財産を共有することが可能になります。このような変化をいかすには、グローバルな視点と本学としての個性が必要になります。

ポストコロナ社会に期待される高等教育機関としての CSR を果たすことを本学の重要な使命の一つとして位置づけ、創意工夫、試行錯誤しながら取り組んで参りますので、皆様のご理解とご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。



福井市との連携事業

リアルローカリズムCM作成プロジェクト

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 澤崎 敏文

仁愛女子短期大学では福井市広報課と連携して、リアルローカリズム事業によるCM作成プロジェクトに取り組みました。福井の魅力をこれまでも様々な形で情報発信してきましたが、北陸新幹線の開業を控え、さらに多くの方々に向けて福井の魅力を発信するためには、まず福井に住む私たち一人ひとりがその魅力を知って再認識しなければなりません。そのためには、行政だけでなく、住民自身の「福井の好きなおとこ」を織り交ぜて、今までにはない新しい「福井愛」の形を作り出そう!ということで、CMのシナリオを広く一般公募して、福井市内の大学生がCMとして映像化するという事業となりました。

福井市役所が実施した公募には31作品のCMストーリーが集まり、そこから、選考会を経て、3つが選ばれました。

本学では、コミュニケーション演習I(1回生)ならびに専門演習(2回生)の授業の一環として取り組みましたが、学生たちは2~3名の7つのグループに分かれて、選ばれた3つのストーリーから1つを選択してCM動画の作成を行います。選ばれたストーリーの世界観や伝えたいことなどをどのように映像化すべきかを議論し、他の自治体のCM動画なども参考にしながら撮影をスタートさせました。実際に、日野川桜づつみや、えちぜん鉄道の駅構内、電車内で撮影をさせていただきましたが、イメージと実際の映像のギャップ(秋に桜をテーマにした映像を作っていくことなど)や、1分程度という短い時間に福井の魅力を伝える難しさを学ぶことができました。日野川桜づつみに取り組んだ学生からは、「制作の中で、育ってきた地元への愛情や、いろんなことを教えてくれた先人たちに対する感謝の気持ちを再認識することができました。その思いが、見た人にも伝わるといいなと思っています。」という感想も。今回のCM動画作成をとおして、情報技術・撮影技術だけでなく、地元福井の歴史や人々の暮らしを学び、文字通り、新しい「福井愛」が映像作品として形になったと感じています。

○各作品の内容とイメージ

1. 西藤島地区が誇る日野川桜づつみ

過去にたびたび氾濫した日野川。その堤防強化のために植樹された「桜づつみ」は、毎年変わらず咲き誇り、地域の人たちが世代を超えて守ってきたものを伝えてくれる。



2. 青い季節の風景画

えちぜん鉄道で通学していた友人二人が大学進学で離ればなれに。進む行先も違う二人が別れるその日、通学途中でいつも眺めていた福井の何気ない日常が、いとおしくかけがえのない風景になっていることに気づく。



3. なんにもない福井

「なんでもある」都会に憧れながらも、「なんにもない」からこそ自然や季節の移ろいの美しさを感じられると気づく。未来の私たちに福井の良さを残していく。



学生が作成したCM動画はどれも1分程度。福井市の公式YouTubeチャンネル「ふくチャンネル」での一般公開や、ハピリンの大型ビジョン、その他、福井市が主催するイベントで放映されています。ぜひご覧ください。

令和2年度 保育研究合同発表会

(福井市・仁愛女子短期大学幼児教育学科 合同発表会)

幼児教育学科 准教授 増田 翼

これまで本学幼児教育学科では、発表会などを通じて学生の学習成果を広く発信してきました。また昨年度(2019年度)からは、包括連携協定を結んでいる福井市との協働による「保育研究合同発表会」を開催するなどして、学生の学習成果と現場保育者の研究成果を互いに発表し合い、学びを深める場づくりにも取り組んできました。

残念ながら2020年度については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2019年度と同様の会場参加型「保育研究合同発表会」の開催は難しく、一時は中止も検討されました。しかし、福井市子育て支援課の先生方と何度も協議を重ねるなかで、学習成果・研究成果をWeb上(YouTubeチャンネル)において

動画公開するという代替案が浮上し検討することとなりました。実際の動画公開までには、動画作成の方法、YouTubeチャンネルの構成、視聴後アンケートの項目など検討課題が様々ありましたが、挑戦してみると種々の発見もあり、最後まで大きなトラブルもなく公開期間を終えることができました。

公開期間中は、「教育・保育の質の向上に向けて共に学びあおう」をテーマに、このYouTubeチャンネル上における発表会を、視聴者自らが学びを深める場、ならびに学生と現場保育者がお互いにその学びを共有する場、として位置づけたほか、アンケートによる相互評価も行いました。実施内容の詳細と実際のYouTubeチャンネル画面(図1、図2)は以下の通りです。

- 公開期間：2021年2月1日(月)～2月12日(金)
- 内 容・福井市および仁愛女子短期大学からのメッセージ
 - ・福井市公立園の研究成果と課題発表
 - ・研究指定園指導者によるコメントおよび学生や現職者へのメッセージ
 - ・仁愛女子短期大学幼児教育学科2回生「保育総合ゼミナール」学習成果発表



図1 2020年度 保育研究合同発表会 YouTube チャンネル



図2 YouTube チャンネル 幼児教育学科「保育総合ゼミナール」

公開期間中に協力を呼びかけたアンケート（Google フォーム）の回答は、全体でおおよそ400名以上の方々から集まりました。その内訳を見ると、福井市公立園勤務の保育者（職員）、本学幼児教育学科1・2回生のほかにも、自治体等保育行政関係者、保育者養成校教員、さらには短大ホームページ経由でYouTubeチャンネルにアクセスいただいた一般来場者など、様々な方々にご視聴いただいた模様で、学習成果および研究成果を広く発信することができたと考えています（さらに、本学幼児教育学科への入学を予定している高校3年生にも「入学前教育」の一環として視聴を呼びかけました）。

なお、アンケート結果のなかでも、特に福井市公立園勤務の保育者（職員）を中心に尋ねた2つの項目について、以下に報告しておきたいと思います（有効回答数199）。まず、これまでも会場参集型で実施されてきた現場保育者の研究成果発表の場がYouTubeチャンネル上に代替され、各自が自宅等で視聴するという形態に変わったことについて、5点満点で尋ねたところ、その平均値は4.0でした（図3）。この結果をどのように解釈すべきか即答はできませんが、回答者になぜその点数をつけたのか理由を尋ねた自由記述には、「YouTubeで研究発表をみたため何度でも見返せたのが良かった」「紙面だけで見るよりよくわかるし、全部目を通せる」「都合の良い時を選んで視聴できた」などと書かれているこ

とからも、おおむね好意的に受け止められたのではないかと思います。ただし、「内容について質問できない」「発表に対する意見のやり取りができにくく反応が読み取りづらい」「提示物の内容などをじっくりと見られず、詳細が伝わりにくい」といった意見も散見されることから、学びを深めていく（相互に高め合う）という点に課題があるといえるかもしれません。

もう一つ、「合同発表会の開催形態について、あなたの考えは以下のどれに一番近いですか？」という質問項目に対しては、図4のように、コロナ終息後は会場参集型の対面開催支持が17.6%で、残り80%以上の方々はWeb開催支持（Webのみ開催支持が56.3%、Webと一部対面の併用支持24.6%）という結果となりました。もしかすると現場保育者の「オンラインニーズ」はかなり高いのかもしれません¹⁾。

次年度以降、学びを深めたり高め合ったりするという「保育研究合同発表会」の趣旨を追求しつつも、コロナ感染予防ならびに「オンラインニーズ」の実態などを踏まえながら、開催形態について福井市と協議を重ねていく予定です。また、アンケートの実施方法についても「事前にアンケートの内容がわからず何回も見直さなければいけなかった」などの課題が挙げられたので改善していきたいと思います。

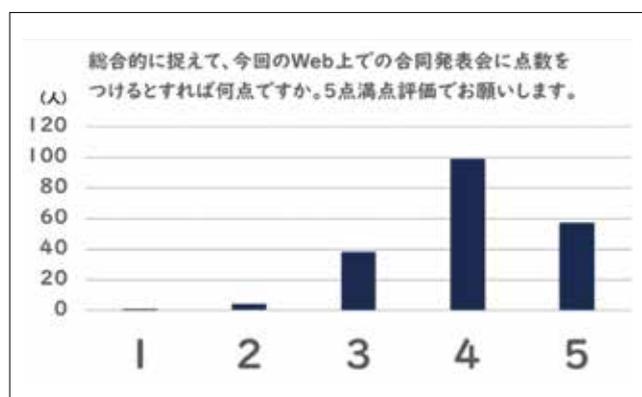


図3 今回の合同発表会に対する評価 (5点満点評価)

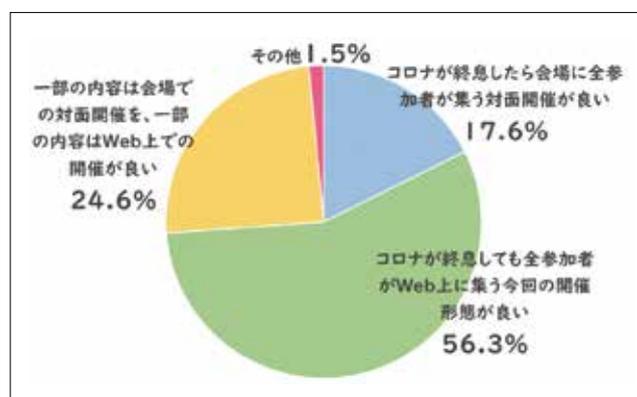


図4 今後の合同発表会の開催形態について

【註】

- 1) 2020年度に本学の教員免許状更新講習を受講されたの方々を対象としたアンケート結果においても、「今後の講習形態」として「対面支持」6.2%、「オンラインのみ」31.0%、「対面とオンライン」62.8%となっており、やはり「オンラインニーズ」が高い傾向となっています（仁愛女子短期大学ブランディング推進室編『2020年度 成果報告書』2021年3月、146頁）。

永平寺町 えちぜん鉄道 観音町駅PR看板 えい坊君と、町の花 梅をデザインしました。

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 西畑 敏秀



短大と包括連携協定を結んでいる永平寺町から、えちぜん鉄道観音町駅にある町のPR看板が20年以上放置されたままなので、一新したいとの依頼がありました。10年後、20年後も、町民の子や孫の世代が、大好きなふるさととして、心から「住み続けたい」「住んでよかった」と言えるようなまちをイメージさせるデザインを考案して欲しいという要望のもと、2回生のグラフィックデザインの授業で取り組みました。町からの情報をキーワードに30数案のアイデアを提出。関係者や駅利用者の投票で清水愛乃さんの案が採用され、Macのアプリで原画をもとにデータを制作し完成。3月30日には河合町長やえちぜん鉄道社長、そして本学学長らが出席して設置セレモニーがありました。

清水さんは出席できませんでしたが、次のようなコメントを寄せてくれました。「この度は、私のデザインを採用して頂きありがとうございました。自分の自信にも大きく繋がっていますし、短大生だった頃の私のデザインが利用されているのが本当に嬉しいです。家族や友人からあの看板の前で撮った写真と共にメッセージが送られてきたときは、本当に幸せでドキドキしました。今私は仕事で他県に一人暮らしをしています。慣れない土地で初めての事ばかりで不安と新しい発見の毎日を送っています。ふと観音町駅の看板の事を思い出すと、地元に戻りたいと思うことも。私が

何歳になっても、懐かしさや思い出が甦るものを形として残していただきとても有難く思います。まだ私自身実物を見ていないので、この状況が少し落ち着いて地元に戻る時には短大の友人と見に行こうと考えてます。私の作品が少しでも永平寺町の活性化に繋がること、永平寺町を知るきっかけになること、地域の皆様の目に留まり元気を与えられるものとなれば、嬉しいです。」



たくさんのアイデアの中から、採用になった清水さんのラフスケッチ。



仁短時代に、仲間たちとイベントに取り組む清水愛乃さん（中央）。現在は関西方面で、ネイリストになる夢を実現するために、いろんな勉強と経験を積んでいる。

「Morebi」

再生～森田駅をミニ美術館に（もりた夢駅～冬物語2020）

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 内山 秀樹

11月23日(日)～12月25日(金)まで、森田地区文化委員会との共催で開催された「Morebi」に参加しました。生活デザイン専攻1、2回生22名が出展者として、そのうち2回生3名が卒業研究として企画から実施まで中心的に取り組みました。

当初、マイアクアでの1日開催のイベントを予定していましたが、コロナ禍により自粛せざるを得ない状況になり、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら地域課題の解決につながる企画として生まれたのがこの企画です。

駅をコミュニティ施設としてもっと活用したいという従来からの課題に加え、北陸新幹線開業に伴う在来線第3セクター化後の駅のあり方を探る社会実験としての意義さらには、1ヶ月の展覧会にすることにより来場者を

分散させることが可能で、withコロナ下でのイベントのあり方としても評価できるのでは？ということで、実施に至りました。作品は駅や森田地区をテーマにしたものを住民や森田地区にゆかりのある個人、団体から募集し、最終的に18作品が駅の内外を飾りました。

今回の取り組みを通じて、出展した学生たちは、白紙段階から構想し、形にする事の難しさを学びました。また、中心的に関わった学生は企画を実行するために必要な多くのことを学ぶとともに、連携した地元デザイナーのプロの仕事を目の当たりにして大いに刺激を受けたようでした。また、地元文化委員会からは、今後の駅のあり方として、一つの好事例になったと評価をいただきました。

自治体等との連携事業

もりた夢駅～冬物語2020
「再生～森田駅をミニ美術館に」

作品募集 だれでも参加可能

「再生～森田駅をミニ美術館に」とは？
森田地区では歩いて暮らせるまちづくりとして、公共交通機関の利用促進に取り組みしています。所在来線が新幹線開業により第3セクター化するに併し、駅を鉄道利用者だけでなく、住民が集い交流するコミュニティ施設として新しく生まれ変わるきっかけにできないかと考えております。そこで「再生～森田駅をミニ美術館に」と題したアートイベントを開催し、駅・森田・鉄道及び人の心の「再生」を目指します。

エントリー期間 10月5日(月)～10月18日(日)
現地見学会 10月18日(日) 10:00～12:00
募集期間 11月14日(土)～11月23日(金)
作品展示期間 11月23日(日)～12月25日(金)
作品撤去日 12月26日(土)

※参加費 無料(作品にかかる費用は自己負担になります)
会場 森田駅舎及び駅構内

応募方法
応募書類と写真、住所、連絡先(メールアドレス)、電話番号を森田公民館にご連絡ください。エントリーシート等の関係資料をお渡しします。

応募先およびお問い合わせ先
森田公民館 福井県下野田駅前2
Tel/Fax: 0776-66-0195 E-mail: morita-h@nrrl.fctk.na.jp
共催: 森田地区文化委員会、仁愛女子短大(協力): 山田グラフィック

作品募集のチラシを全戸に配布



展示可能空間打ち合わせ (福井地域鉄道部)

森田駅 福井 SNS映え

再生テーマ アート彩り
住民、仁愛女子短大が共催

2020/12/9 日刊県民福井

福井市下野田駅前、森田駅舎の内外を飾る「再生～森田駅をミニ美術館に」の作品展示が始まった。森田地区文化委員会と仁愛女子短大が共催する「再生～森田駅をミニ美術館に」の作品展示が始まった。森田地区文化委員会と仁愛女子短大が共催する「再生～森田駅をミニ美術館に」の作品展示が始まった。森田地区文化委員会と仁愛女子短大が共催する「再生～森田駅をミニ美術館に」の作品展示が始まった。

Morebi 紹介記事 (日刊県民福井 2020/12/9)

自治体と仁愛女子短期大学との連携事業報告

総合学務センター 入学・地域支援課

協定に基づいて、今年度も相互に連携・協力して様々な事業を行いました。

【永平寺町】

○気になる子への関わり方(園巡回、保護者相談)

内 容:子どもの見方、支援の方法、保護者相等

講 師:本学 幼児教育学科 講師 中尾繁史

開催日:令和2年 9月29日(火) 志比南幼稚園

令和2年10月 8日(木) 上志比幼稚園

令和2年10月23日(金) 松岡幼稚園

令和2年10月26日(月) 御陵幼稚園

令和2年10月27日(火) 松岡西幼稚園

令和2年10月29日(木) なかよし幼稚園

令和2年11月 5日(木) 志比北幼稚園

令和2年11月 6日(金) 志比幼稚園

令和2年11月20日(金) 吉野幼稚園

令和2年12月15日(火) 松岡東幼稚園



生活デザイン専攻(9月)



生活情報専攻(10月)



幼児教育学科(1月)



食物栄養専攻(3月)

【森田地区】

例年実施していた、森田地区児童館等における英語であそぼう講座や本学附属図書館の利用サービス等は、新型コロナウイルスのため、今年度は中止となりました。

○JR森田駅構内の夢ギャラリー森田へ作品等展示

令和2年 5月 新型コロナウイルスのため中止

令和2年 7月 入学・地域支援課

令和2年 9月 生活デザイン専攻

令和2年10月 生活情報専攻

令和3年 1月 幼児教育学科

令和3年 3月 食物栄養専攻

図書館の活動報告

附属図書館 竹下 真弓

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前期はオンライン授業を実施し、学生の来館もほとんど無かったため、企画展示は後期から実施した。また、例年、本学卒業生と森田地区住民の方には貸出を行っていたが、現在は、中止している。今回の報告では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い新たに実施した図書館サービスも併せて記したいと思う。

●2020年5月「郵送での図書貸出サービス」

5月7日(木)より、所蔵資料の貸出を送料無料で実施した。利用者は3名で貸出冊数は6冊だった。

●2020年6月「申込制による図書館開館」

6月1日(月)より、事前申し込み制で図書館を開館した。貸出は、授業に関連のある資料や就職に関連のある資料に限定し、館内での閲覧は不可とした。利用者は80名だった。

●2020年6月「電子書籍の利用」

6月1日(月)より、丸善雄松堂の協力もあり、家で電子書籍の閲覧が可能になった。事前申し込み制で、11名の申し込みがあった。

●2020年9月「本屋大賞受賞作品展」

2020年本屋大賞受賞作『流浪の月』胤良ゆう著をはじめ、候補作品9冊を展示した。



●2020年10月「創作絵本展」

本学の生活デザイン専攻2回生が「デッサンII」の授業で創作した25作品を展示した。絵やお話、絵本カバーまで全てオリジナル絵本。他学科・他専攻の学生たちも興味深くページをめくっていた。



●2020年11月「絵本なぞなぞシリーズ作品展」

幼児教育学科保育内容指導法「言葉」(1回生)の授業で創作された作品。学生が創作したなぞなぞとそれに関連する貼り絵が施されていた。学生の言葉遊びの巧みさとカラフルな作品で図書館がぱっと明るくなった。



●2020年12月「ふるさと風花文庫」

福井県立図書館「ふくい風花随筆文学賞」実行委員会様より、若い世代が読書や文芸創作への興味・関心が高まることを目的として選書された「ふるさと風花文庫」全110冊を仁短図書館に貸出していただいた。バラエティ豊かな文庫を前に学生は興味津々で、目を輝かせて選んでいた。



●2021年1月「図書館サポーター選書本」

図書館サポーター12名が選書した図書など63点をおすすめのコメントを添えて展示した。同年代の学生が選ぶ図書は、様々な分野の内容が並び、毎年人気のコーナー。



●2021年2月「サークルとコラボ企画」

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、サークル活動が困難な中、「猫部」がネコの写真を展示してくれた。題して「ねこ好きの ネコ好きによる 猫好きのための写真展」。ネコ関連の絵本や書籍も併せて展示した。



●2021年2月「第8回青空文庫表紙コンテスト」

Webサイト「青空文庫」には著作権の切れた古い文学作品が掲載されている。その中から3作品（今年は、『オツベルと象』・『一年生たちとひよめ』・『赤いくつ』）を図書館が選び、作品の持つ魅力を一層際立たせる様な「表紙デザインコンテスト」を行った。優秀賞受賞者には、副賞として図書カードと作品を表紙にした文庫本を贈呈している。

今年度
優秀賞受賞作品



今後も、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、このような状況下でも可能な図書館活動を模索していきたい。そして、安心して図書館を利用してもらえるよう努めていきたいと思う。

令和2年度報告

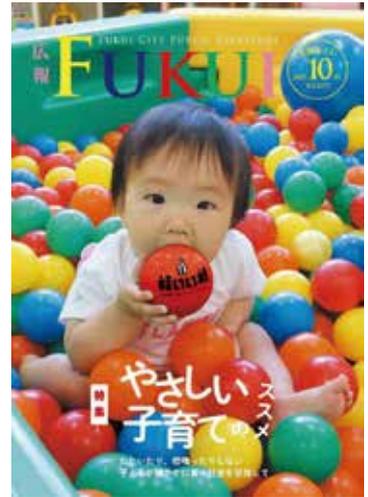
福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室

副室長 野路 昌美

子育て支援室・相談室は、福井市委託事業として平成19年度に運営を開始してから、14年目を迎えました。今年度からは、新たに子ども相談・子育て支援事業として運営を行っています。



施設案内図



「広報FUKUI」10月号の表紙

子ども家庭センター

【子育て支援室】

子育て支援室は、子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育て相談や子育てに関する講座の実施、地域の子育て関連の情報提供など、親子・家庭・地域社会の交わりを作り出す場としての機能を担っています。今年度は、本来の開放型運営とは異なる方法での開所でした。利用人数制限と利用時間枠を設けた予約制運営を行い、親子が安心して過ごすことができるよう衛生管理の徹底に努めました。

※注1

<令和2年度利用状況>

総利用者数	子ども数	子ども/ 実利用者数	子ども/ 新規利用者数	子ども/ 実世帯数	開所 日数
6,104人	3,216人	624人	352人	478世帯	255日

<子ども年齢別利用状況(年度比較)>

子ども年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4~6歳児
令和元年度	32%	33%	16%	10%	9%
令和2年度	26%	34%	24%	7%	9%

各利用時間には、子どもの年齢などに応じた絵本の読み聞かせや手遊び、リズム体操などのプログラムを組込みました。また、同じ曜日、同じ時間枠を利用している親子同士のつながりが持てるように親子の様子を観察しながら働きかけを行いました。

《子育てに関する相談》

日常、親子が利用する中で、「イヤイヤがひどくなった」、「下の子を抱くと、上の子が抱っこを求めたり下の子をたたいたりする」、「後追いがひどくて家事ができない」、「夜泣きがひどくて困っている」、「気持ちの切り替えが難しい子へはどうしてあげると良いか」などの様々な相談を受けています。



利用者つながりの様子



親子プログラムの様子

私たち職員は、利用者から子どもの様子を聴き取りながら丁寧に対応するのは勿論のこと、必要に応じ、子どもの月齢や居住地区、就園状況などの生活経験を参考にできるよう、利用者同士の会話をつなぐ対応をしています。このような際の利用者同士のつながり合いは、子育ての困難さを共有したり、生活の工夫を伝えあったり、励ましあったりする仲間づくりにもなっています。

今年度は、多くの利用者が『子育ての負担感』についての気持ちを話す場面がありました。その言葉は短くも、深い内容の語りでした。私たち職員は、一人ひとりの利用者に声を掛け、耳を傾け、頑張りを褒め、ねぎらい、大変さに共感し、寄り添っていきました。

ある利用者は「外出自粛、学校休校、幼稚園休園、夫のテレワーク（子どもを静かにさせなくてははいけない）などにより、毎日自宅の部屋の中という同じ環境の中で、子どもが外に出たがって泣いたり、兄弟喧嘩をすることが激しくなったり、子どもとどう向き合ったらいいのか、どのように過ごしたらいいのか、悩み、限界状態になっていた」と話してくれました。また、ある利用者は「県外の実家に行くことや市内外の友人と会うことも出来ず孤独を感じ、自分の子育てや子どもの発達に不安ばかりが膨れ上がる状態だった」と語ってくれました。

雪のある生活を初めて体験した利用者らは「車を持っていないし、ベビーカーも動かすことが出来なかった」「雪があるから子どもが嫌がって歩かなかった」「子どもを抱いて歩いたけど、道を横断することが怖くて、家で引きこもり状態になっていた」などの心の内を話してくれました。一方、地元暮らしの利用者らも「雪の間、狭い家の中で長い時間過ごさなければならず、親子ともにストレスが溜まってきた」「子どもをおんぶして歩いて買い物に行って疲れた」などと生活の様子を話してくれました。利用者らのその語り始めはみな険しい表情でしたが、気持ちを話すうちに安堵の表情を見せてくれました。

子育て親子にとって、普段何気なく遊んだり、絵本を読んだり、お話をしたり、相談したりと、ここに来れば誰かがいるという場所が当所の子育て支援室でした。それは、人と人とのつながり合いや支え合いの場でもあり、私たち職員にとって、その役割機能の重要性を改めて考えさせられた1年でした。

《子育て講座、親子講座、親子プログラム》

利用者に関心を持ってほしい内容や親の子育て力を高められるような話題提供を行うために、専門の講師を招いた〈子育て講座〉や利用者同士が交流をしたり、親子のスキンシップを深めたりする〈親子講座〉を開催しました。そのほか、定期的に親子プログラム〈ふれあいあそび〉や〈おはなし会〉などを開催しました。〈季節の行事〉では、夏にはおまつりごっこ、冬には伝承遊び体験や豆まきごっこなど、季節感を取入れた活動を行いました。

＜子育て講座等の実績＞

講座／プログラム 項目	開催数(回)	組数(組)	人数(人)
子育て講座(学园内連携講座含む)	12	80	190
親子講座(ボランティア講師)	19	121	273
子育てサークル支援事業 はっぴいすmama	5	31	66
親支援事業 ほっとるーむ はぐはぐ	6	12	25
季節の行事	12	123	283
親子プログラム	59	652	1,367
地域支援活動(地域公民館/地域施設)	11	45	94
その他	8	55	120

《親支援事業「ほっとるーむ はぐはぐ」》

就学前の子どもの保護者や妊婦とその家族を対象に、子育ての不安感や孤独感、ストレスの軽減などを図るとともに親の今を受け止め、親としての成長をはぐくむことを目的としたグループ活動を行っています。10年目の継続事業です。ファシリテーターに臨床心理士を配置しています。今年度は計6回開催しました。参加者は子どもと離れ、「子育て中の気分転換、どうしてる?」、「夫婦や家族、子育て観が違うとき」などの各回設定するテーマや共通の話題につい



季節の行事「おまつりごっこ」



親子プログラムの様子



「はっぴいすmama」



「リトミック遊びを楽しもう」

て、安心できる空間で自由に語り合うことができました。

《子育てサークル支援事業「はっぴいすmama」》

県外から市内へ転入してきた利用者（母親）の子育ての困難さや不安を軽減するため、参加者同士の交流を深めたり、情報交換をして支え合ったりすることで、仲間づくりをして、子育てに喜びが持てるよう支援することを目的として実施しています。今回は、福井に暮らして数か月～3年程の方、昨年もこの事業に参加した方、県外出身の方が集まりました。

1回目は、自己紹介を行い、参加者同士が子育ての大変さを共感し、工夫していることを伝え合いました。

「知らない土地でのママ友づくりや子育てに関する情報交換をして、不安を解消していきたい」という気持ちを打ち明けてくれた参加者もありました。アンケートには「もっと話したい」「同じように頑張っている親がいるのを知り、自分だけではないと安心した」「気軽に話せる雰囲気、ママ友ができてうれしい」などの言葉が寄せられました。

2回目は、『おすすめの小児科、お出かけスポット、保育園などの入園時期や選び方、通勤族の就職活動』について情報交換をして交流を深めました。お出かけについては「子育て支援センターが感染症対策をしていて、予約制や家族数制限で密にならないことから、安全で一番のお出かけスポットである」という話題がありました。また、就職活動については、『ふくい女性活躍支援センターの「働くための出張相談会」』講座での情報が役立つという意見も出ていました。

3回目は、『福井の冬の過ごし方』について意見交換をしました。県外出身者らからは「融雪の水はベビーカーにかからないのか、子どもにかかっても安全なのか」「雪が降ったら道路はベビーカーで歩けるのか」「通園している園の駐車場は除雪されているか」などの疑問があがりました。福井暮らし経験者らからは「雪

の時の子どもとの移動は車があると便利」「車の中には先が平たいスコップが必需品」「子どもの防寒具の選び方のコツ」などについて伝え、地域生活の知恵や情報の共有を図りました。

4回目では、雪の生活体験がない参加者が、雪が降った時の親子の過ごし方や生活の仕方について不安を示し、雪の日の過ごし方についてさらに情報交換を行いました。雪の日の大変さだけではなく、楽しみ方も話し合うことができました。

最終回では、参加者らは連絡を交わし、その後も当所を利用しながら交流を深める様子がありました。さらに、周りの利用者自ら声をかけて会話を築き、子育ての情報交換をするなど、利用者同士の笑顔が広がる働きかけを楽しんでいる様子が見られました。

はっぴいすmamaを始めて5年、新たに福井での暮らしを始めた子育て親子の生活の一步を支え合える事業として根付いてきたのではないかと感じています。

《学園内連携子育て講座》

短大や高校の教員を講師に招いた子育て講座を行いました。学生や生徒らの参加もありました。この日のために練習や準備を教員と共に重ねてきたであろう彼女らの様子に、参加親子は、お姉ちゃん先生と親しみをもって講座を楽しんでいました。

開催日	テーマ/講師
8月12日(水)	「かほるママのリクエストコンサート」 仁愛女子高等学校 高橋かほる氏
8月13日(木)	
10月30日(金)	「ミニコンサート」 仁愛女子短期大学 坂本 流美氏
11月29日(日)	「えいごであそぼう」 仁愛女子短期大学 野本 尚美氏
12月6日(日)	「いろいろなか音を楽しもう」 仁愛女子短期大学 木下 由香氏
12月20日(日)	「おはなし会」 仁愛女子短期大学 松川 恵子氏
3月6日(土)	「わらべうた」 仁愛女子短期大学 坂本 流美氏



「大型絵本と音あそび」



「えいごであそぼう」
仁愛女子短期大学連携



「かほるママのリクエストコンサート」
仁愛女子高等学校連携



「パパも一緒に
ミュージックケア」

《短大生の体験学習》

幼児教育学科2回生計100名の学生が体験学習を11～1月に行いました。親子とのふれあいや親子の様子観察、各自が準備してきた絵本の読み聞かせや手遊びを行いました。体験を終えた学生らは、開始前の緊張した表情から一変し、凛とした姿勢と豊かな笑みがあふれていました。親子との時間が学生らにとって貴重なものであったことがうかがえました。

《子育て支援ボランティア「た・ま・ごの会」の活躍》

た・ま・ごの会では、会員が各々の得手する活動を行うことを基本にしています。手作業が得意な会員は季節の行事に使用する小物づくりを、体を動かすことが得意な会員は講座のサポートなどのべ97名が活動しました。また、マスク作りや消毒用のぞうきん作りでも、当所を支援いただきました。



「フィンガーペインティング」



「ひっかき絵」
子育て支援ボランティア「た・ま・ごの会」

【相談室】

相談室では、18歳未満の子どもの養育に関する相談に応じています。また、相談の内容が多様化複雑化していることもあり、心理担当職員を配置し対応を行っています。

そのほか、市要保護児童対策地域協議会や乳幼児支援関係機関会議への参加、関係機関と連携した援助の検討や情報共有を行いました。

＜令和2年度相談室対応件数＞

子ども相談	総数(件)	対応方法(件)				開所日数
		電話	面接	訪問	その他	
	1,271	884	333	43	11	308日

＜相談総数の内訳:主訴＞

主訴	養護	障がい	性格行動	不登校	適性	育児しつけ
割合	37%	6%	18%	5%	1%	33%



子育て支援室と相談室の掲示物
「体罰によらない子育て」(厚労省)



相談/面談室



福井市子ども家庭センター
子育て支援室・相談室
ホームページ(PC版)

※注1) 令和2年3月2日～5月31日福井市地域子育て支援センター臨時休所。令和2年6月1日～令和3年3月31日予約制(時間および人数制限) 運営方法を福井市の指導のもと実施。

社会的活動報告

《おすそわけマスク》の配布

生活科学学科 生活デザイン専攻 准教授 前田 博子

□森田駅内の夢ギャラリー森田にてマスクのおすそわけを
2回実施した。会期日程は下記の通りである。

□会期：2020年9月10日(木)～10月5日(月) (図1)

□会期：2020年11月23日(月)～12月14日(月) (図2)

マスク制作について、使用した生地と糸は森田に住んでいた今は亡き女性から譲り受けたものを使用している。いつか使おうと取っておいた生地でマスクを作ることは見知らぬ女性の意思のように感じたためである。仁愛女子短期大学に置いて《おすそわけマスク》と差別化するため、学生が授業で考えた柄を蛍光色の顔料でシルクスクリーンプリントしたものをマスク生地として使用した。アコちゃんとももこ(図3)や動物の顔になる柄など(図4)、バリエーションを多く、色彩は多彩とした。

1回目は351枚、2回目は663枚を設営した。

本研究の目的は見知らぬ女性が所有していた生地や資材を共有することを目的としており、ものそのものの共有と布が本来持っている性質や目的、機能を共有することである。その結果、着用者である他者(駅の利用者)と再生産者であるわたしの間には見知らぬ女性の遺品そのものとそれらを集めた彼女の意図や想いが共有されていた。

見知らぬ女性から預かった布、衣は他者と再生産者との間に介される物であると同時に、思想を共有するアイテムとして動員されている。これらは心理的、身体的に身を守り、社会(マイクロコミュニティ)へ解放されるものとなった。

マスクが少なくなっている頃合いを見計らってマスクを追加しにいくと、いつも必ず綺麗に整えてあった。駅員の方か駅の利用者の方かはわからないが、《おすそわけマスク》を丁寧に扱ってくださっていた。このことは見知らぬ女性の意思と私の手芸行為への互酬性であった。これらは地域コミュニティ形成における新たな方法であると感じている。



図1 1回目展示風景



図2 2回目展示風景



図3 アコちゃんとももこのプリント柄



図4 動物の顔になるプリント柄

社会的活動報告

「木づかい体験会」への参加

幼児教育学科 准教授 香月 拓

今年度、香月ゼミ・木下ゼミでは、福井県農林水産部 県産材活用課と連携し、ふくいの木を活用した「木づかい体験会」を実施しました。その概要は以下の通りです。

◆概要

将来的なふくいの木の利用者であり、これからの福井県を担っていく未就学児を対象に、本学の学生がこども園等を訪問し、ふくいの木で作られた遊具や玩具を通じた触れ合いの中で、ふくいの木の良いさを伝える取組み。

◆こども園での木づかい運動の実施内容

□ふくいの木を使用したカスタンネットづくりと音楽あそび (木下ゼミ)

全4回(仁愛短大附属幼稚園、愛星保育園、上野こども園、三心わくわく認定こども園)

□ふくいの木を使用した魚釣り玩具制作と森の紙芝居 (香月ゼミ)

全4回(仁愛短大附属幼稚園、青い鳥こども園、足羽東こども園、牧島保育園)

実施した園では、毎回熱心にやすりをかけたり、色を塗ったり、夢中で遊びこむ子どもたちの姿がありました。ある園の先生からは、後日メールにて「体験会の後、お部屋に戻ってからも、子ども達はさかな釣りをしたり木や森の図鑑をみたり、木のさかなにペイントしたり、水族館ごっこしたりと思いに遊んでいました。



夢中で遊ぶ姿から、午前中の活動が子ども達にとって楽しいものだったことが伝わってきました」と嬉しい報告をしていただきました。毎日、何かしら木の製品に触れていても、五感を通して木に触れることはないのも、そのような活動を次年度以降も継続していきたいと思えます。

また、香月ゼミの2名が制作した紙芝居「きこちゃんと木の妖精」が『ふくいの木づかいブック』の絵本になり、そのお披露目会が3月10日(水)に福井市の小鳩幼稚園で行われました。



最後に「木づかい体験会」に参加した学生の感想を掲載します。

- 木の良さを子どもに楽しく知ってもらうためには、どのような環境構成をすれば良いかを考えることが大変だったけど今後の役に立つと思う。
- 子どもたちの前で実際に何かをすることはなかなかできない体験であり、どのような関わりが必要になるのか理解することができた。
- 実際に園に行き、子どもに教える立場として活動できたことで、保育者としてのイメージを具体的にもつことができた。
- 子どもの前に立って活動するうえで、どうすれば楽しく聞いてくれるのか、楽しんでくれるのかを学ぶことができた。
- 木は身の周りになくさん使われており、これらの良さを知ることが日常生活のありがたみを知る良い機会となった。
- 触った感覚や匂いなどを通して自然を肌で感じる事ができた。

社会的活動報告

季節感あふれる壁面製作

幼児教育学科 2回生 上中 和香奈

私たち松川ゼミでは、主に「季節感あふれる壁面製作」「小児がんについて」の活動を行ってきました。まず、小児がんの子どもたちのために季節感あふれる壁面製作を行いました。病気と闘う子どもたちに少しでも季節の移り変わりを感じてもらえるように季節に合わせた壁面を毎月製作し、病院へと届けました。壁面には、折り紙を取り入れたり、紐やリボンを使ったりなど立体的にして工夫しながら作りました。



小児がんについて、7月16日に、「公益財団法人 がんの子どもを守る会」の荒木さんのお話を伺って、小児がんについて調べました。小児がんは希少がんで治療が難しく、昔は亡くなってしまう子どもの病気と思われていましたが、現在は約7割の子どもたちが治療を終えることができるようになってきたこと、子どもは治療後の人生が大人と比べて長いこと、患児家族の悩み・不安を軽減することも重要な課題であること、小児がんへの関心が少ないことなどたくさんを学びました。小児がんの治療は普通のがんよりも発症がとてもなく少なく治療が難しく、治療中や治療が終わった後の支援、また小児がんの家族への支援をすることが大切だと思いました。また、小児がんへの関心が少ないのは残念なことだと感じました。小児がんへの関心が少しでも広がるようにできることはないか考えていたところ、ゴールドリボンツリーの啓発活動があることを知りました。毎年世界中で30万人もの子どもたちががんと診断されて、病気と闘っています。こうした

厳しい現実を知ってもらう目的で、国際小児がんの会は、毎年2月15日を「国際小児がんデー」とし、2002年以来、世界中の団体と連携してさまざまなキャンペーンやイベントを実施しています。小児がん支援のシンボルであるゴールドのリボンをクリスマスツリーなどに結び付け展示することで、小児がんを知るきっかけを作りたいという目的で設置しています。「国際小児がんデーキャンペーン2021ゴールドリボンツリー」の活動として、私たちは、小児がんの子どもたちが少しでも元気になってほしいという願いを込めて、仁愛女子短期大学の玄関ホールにゴールドリボンツリーを設置しました。

松川ゼミでの活動を通して、2020年7月分から2021年5月分まで、小児がんの子どもたちに季節を感じられる壁面作りを行い、小児がんで入院している子どもたちに季節の変化を感じてもらえることができましたと思います。小児がんについて「がんの子どもを守る会」の荒木さんの話を伺うことで理解を深めることができました。また、家族支援などについて学び、私たちにもできることがあるのではないかと考えました。小児がんについて調べたり、壁面を作ったりしたことを通して、知識が深まっただけでなく私たちにもできるボランティア活動があることを知り、これからもできる範囲で参加したいと思いました。私自身、ゼミで活動を行って一人で壁面製作を行ったことや、啓発活動に参加したことなどたくさん学ぶことができ、よかったと思います。



教員の地域活動一覧

生活科学学科

(専攻別・五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
生活デザイン専攻	都市計画 まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域避難者支援の必要性と課題 ● 先進事例からまちづくりのココロを学ぶ ● やねだんから学ぶまちづくり8ヶ条 ● やねだんから学ぶまちづくりの流儀 ● 里山坂口での地域づくり ● 夢ある国高のまちづくり～これからどう取り組むべきか? ● 地域を魅力的に人を元気にする プロジェクトづくりのスヌメ ● みんなで創る笑顔あふれる今富～自分ごとで考え、協働するまちづくり～ ● これからのまちづくり～自分ごとで考え協働するまちづくり ● 地域課題解決のための企画検討ワークショップ ● 森田地区将来ビジョンVer.3見直しワークショップ
	グラフィックデザイン ビジュアルコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● デザイン研修/基礎コース デザイン基礎コースの講師 ● 屋外広告物講習会(屋外広告業の経営者および従事者、管理者へのデザイン講習) ● 福井県高校総合文化祭 美術・工芸部門(美術部高校生や美術関連教員に向けた講演会) ● 高度技術者招聘事業(特別授業開講) ● ふくふくベジファースト応援事業「ベジファースト/ロゴ・ポスターデザイン」 ● ふくいサラダニンジンプロジェクト「新種ニンジン」のネーミング企画・ロゴマークデザイン」
	デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO法人SDwaveでの活動(デザインで社会貢献を目指すNPO団体として鯖江市で活動) ● メガメガ・ウルウルのほめほめLINEスタンプ40種類をデザイン ● メガメガ・ウルウルのほめほめゴム印のデザイン ● メガメガ・ウルウルのLINEスタンプ40種類をデザイン ● 鯖江市が新たに市の動物としたレッサーパンダシンボルデザインの使用マニュアル作成 ● とうふドーナツのパッケージにメガウルを使用したステッカーデザイン
	テキスタイルデザイン ファッションデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ● ファッションショーの実施 ● 染め物ワークショップ ● ファッション小物制作ワークショップ ● 企業連携テキスタイル商品企画 ● テキスタイルデザイン図案制作
生活情報専攻	コミュニケーション マーケティング経営	<ul style="list-style-type: none"> ● 効果的なプレゼンテーション手法について ● 地域におけるマーケティングのあり方について ● ソーシャルメディアとビジネスの活用 ● 地域ビジネス、企業等におけるマネジメント ● 企画立案、広報手段について ● コミュニケーションのあり方 ● キャリアデザイン、学びと学習環境等
	教育工学 学習科学	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者のためのパソコン教室 ● eポートフォリオ活用の研修 ● 幼稚園における視聴覚教育研修 ● アクティブ・ラーニングのための授業設計の研修
	英語教育 第二言語習得論	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児向け英語教室 ● 小学生向け英語教室 ● 「洋楽で英語を学ぼう」
食物栄養専攻	食品学 食品加工学 農産製造学 応用微生物学	<ul style="list-style-type: none"> ● 発酵食品と微生物 ● 奥越特産サトイモについて ● ふくいの加工食品あれこれ ● 永く守り、受け継ぎたい伝統の福井野菜 ● 加工食品の知識と視る目を養う ● ジャム作りの基礎 ● 福井県農産物の加工技術・食品開発 ● 福井ウメの機能成分解析と特長を活かした利用加工 ● 野菜の栄養・機能成分と機能性表示食品 ● 「福井梅」の歴史、栄養、機能性、加工利用、研究開発事例 ● 「自然は美味しい?! ～発酵食品と食品添加物の話～」 ● 「栄養成分表示の活用について」 ● 県産食材の栄養・機能成分と加工 ● 野菜の栄養・機能成分について ● 食品添加物の話 ● 食品加工の基本 ● 6次産業化にののための普及活動のポイント ● 6次化に取組む時に考えなければならないこと ● カレント講座「食品学」「食品衛生学」
	生物科学 社会医学	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理栄養士国家試験対策リカレント講座
	公衆栄養学	<ul style="list-style-type: none"> ● 食べることは生きること-食育のすすめ- ● 食と健康-健康寿命を延ばす食事- ● あなたの食卓から子どもの未来を考える ● 「日本人の食事摂取基準2015」を活用した児童福祉施設における栄養管理 ● 食と健康-生活習慣病予防で健康寿命を延ばそう- ● 働く女性の健康管理-食事の工夫- ● 女性の健康と食生活 ● 健康は栄養管理から-低栄養のキケン- ● 食と健康-生活習慣病予防で健康寿命を延ばそう- ● 管理栄養士国家試験対策リカレント講座「栄養教育論」「公衆栄養学」「応用栄養学」
	調理科学	<ul style="list-style-type: none"> ● 親子で作るデコレーションケーキ ● 親子クッキング ● 食育講座(調理実習) ● 離乳食教室

● 幼児教育学科

(五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
健康体力学 測定評価学	内田 雄	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童厚生指導員研修会「ゲーム・運動遊び」 ● 保育者ワークショップ「昔遊びを楽しもう」 ● 「小学校1.2.3年生が楽しめる室内遊び、昔遊び」 ● 「ゲーム・昔遊び」
仏教学 仏教保育学 おもちゃ学	香月 拓	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽文化講座「声明を聴く」 ● ふくい総合学「ふくい浄土真宗」 ● 保育者ワークショップ「身近な素材でおもちゃをつくろう」 ● 新人保育者スキルアップ「新聞紙で遊ぼう」 ● 「こどもの成長とおもちゃあそび」 ● メンタルケア・スペシャリスト養成講座「死生論I」 ● 子育て講座「おもちゃで育む親子のふれあい」 ● 自分とは何か-お釈迦様のことばに学ぶ- ● 人生は楽しいもの? 苦しいもの?-お釈迦様のことばに学ぶ-
音楽	河野 久寿	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化に親しむ【音楽文化講座】第3回「コンピュータによる音楽の作り方」
音楽教育 ピアノ教育 ピアノ演奏	木下 由香	<ul style="list-style-type: none"> ● ピアノ公開講座 ● 保育者ワークショップ「子どものための音楽遊び～ピアノと戯れよう～」 ● ふるさと子どもコンサート、出張音楽堂 ● 親子のための虹色コンサート in 大野「手作り楽器ワークショップとミニコンサート」 ● ポルタDe' ファツィオリ「ピアノふれあい体験」 ● 聴いて、見て、動いて楽しむ! 10歳からのクラシックコンサート ● いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭 ● 親子のための虹色コンサート in AOSSA
幼児造形指導法 洋画制作 洋画原書翻訳 明治期日本における洋画の受容	重村 幹夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの絵 大人の絵 ● 「かたち」発見 ● 明治前期の油絵技法材料について ● クレヨンで動物を描きましよう ● 造形を通した子どもとの関わり方 ● 幼児造形の指導法 ● 小学校低学年児童が作って遊べる遊具 ● 幼児の造形や既習能力に応じた造形活動のあり方について ● 幼児の主体的な造形活動のために-「造形遊び」を中心に-
児童発達支援 特別支援教育	中尾 繁史	<ul style="list-style-type: none"> ● 「気になる子への支援教材の作り方」 ● 「子どもの『あのね』を引き出す関わり方」 ● 「情報共有のための観察と記録の視点」 ● 「『気になる子』への対応」
日本文学 児童文学 国語科教育	前田 敬子	<ul style="list-style-type: none"> ● 発見 百人一首の世界 ● 保育者ワークショップ 書くこと、読むことの保幼小連携 ● 保幼小接続講座・絵本の世界 ● 恋する山川登美子 ● 歌う金子みすゞ ● 伝わる文章の書き方 ● 絵本や物語に親しむ
保育学・教育学 保育・教育思想史 保育・教育方法学 保育者論	増田 翼	<ul style="list-style-type: none"> ● 新保育所保育指針について ● 保育における環境構成 ● 「遊び」とは何か ● 指導要録 保育要録について ● 5歳児の育ちと小学校への接続について ● 生活発表会について ● 歌う楽しさの原点にあるものは? ● 外国籍の子どもや保護者は何に困っているのか ● 躰が変われば子どもも変わる? ● 保育の専門性について ● 保育者だからできること 保育者にしかできないこと ● 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の視点について ● 4歳児の育ちについて ● 連絡帳の書き方 ● 保育に活かす音の遊び ● 気がかりな子を包み込む集団づくり ● スマホ育児 ちょっとだけでも分かっておきたいこと ● 主体的に学ぶとは
教育課程論 保育内容	松川 恵子	<ul style="list-style-type: none"> ● 主任保育士の役割と責務 ● 中堅(リーダー)職員としての役割・行動 ● 質の高い保育を目指して ● 幼児期における道徳性や規範意識の芽生えについて ● 子育て支援は「親育て」から ～"Nobody's Perfect"子どもを育てて親も育つ～

令和2年度 教員免許状更新講習

令和2年度の教員免許状更新講習は、新型コロナウイルス感染拡大防止および文部科学省からの実施方法の特例等に基づき、例年、対面講習で開催してきたものをオンライン（YouTube動画配信による非同期型もしくはZoomによる同期型）で実施しました。また、オンラインでの実施が難しい講習については中止とし、中止講習を希望していた受講生には、オンライン講習への変更手続きを行っていただきました。

前期・後期に開講した講習は、次の通りです。

【前期開講】

必修講習 ①	講習名	教育の最新事情
	認定番号	令02-35141-100540号
	講師	乙部 貴幸（本学 幼児教育学科 准教授） 賞雅 さや子（本学 幼児教育学科 准教授） 増田 翼（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	実施方法	動画視聴 [オンデマンド型・YouTube配信]
	日程	令和2年7月26日（日） 9:00～23:59
	受講者数	99人

必修講習 ②	講習名	教育の最新事情
	認定番号	令02-35141-100541号
	講師	乙部 貴幸（本学 幼児教育学科 准教授） 賞雅 さや子（本学 幼児教育学科 准教授） 増田 翼（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	実施方法	動画視聴 [オンデマンド型・YouTube配信]
	日程	令和2年8月24日（月） 9:00～23:59
	受講者数	89人

選択必修講習 ①	講習名	教育の情報化（幼稚園編）
	認定番号	令02-35141-301147号
	講師	田中 洋一（本学 生活科学学科 教授）
	講習の目標・ねらい	主体的・対話的に思考力・判断力・表現力を活かして、幼稚園での「教育の情報化」に関する最新の知識・技能を学び、下記2点の到達を目指す。 ①情報倫理や情報セキュリティを理解し、幼稚園の情報セキュリティ・ポリシー（方針）を設計できる。 ②最新のICT活用例を理解し、多様な園児に合わせた視聴覚教育を設計できる。 また、本講習ではアクティブ・ラーニングとして特徴的な3つの手法（シナリオを用いたPBL、ワールドカフェ、知識構成型ジグソー法）を体験し、園での研修等に活用できることを目指す。
	実施方法	Zoom（オンライン遠隔会議システム） [同時双方向型]
	日程	令和2年7月5日（日） 9:00～16:10
受講者数	19人	

選択必修講習 ②	講習名	幼稚園教育要領改訂の動向及び法令改正及び国の審議会の状況等
	認定番号	令02-35141-301150号
	講師	松川 恵子（本学 幼児教育学科 教授） ゲストスピーカー：青木美恵（福井県教育庁義務教育課 幼児教育グループ 主任）
	講習の目標・ねらい	「幼稚園教育要領等の改訂」「法令改正及び国の審議会の状況等」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	実施方法	動画視聴 [オンデマンド型・YouTube配信]
	日程	令和2年8月25日(火) 9:00～23:59
受講者数	171人	

選択講習 ①	講習名	子どもの運動と食育
	認定番号	令02-35141-504151号
	講師	内田 雄（本学 幼児教育学科 講師） 木内 貴子（本学 生活科学学科 講師）
	講習の目標・ねらい	子どもの健康を「運動」と「食育」の面から学ぶことを目的とする。 「運動」では、子どもの運動遊びと体力の発達について学ぶとともに、体力測定の効果的な活用方法を学ぶ。 「食育」では、子どもの心身の発達における食生活の重要性とその在り方、食物アレルギーへの対応について学ぶ。
	実施方法	動画視聴 [オンデマンド型・YouTube配信]
	日程	令和2年8月9日(日) 9:00～23:59
受講者数	137人	

選択講習 ②	講習名	仏教に見る子どもとの関わり
	認定番号	令02-35141-504152号
	講師	香月 拓（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	釈尊の生涯と言葉について学ぶ。さらにその学びを通して、これまでの子どもとの関わりについて振り返りながら自己省察をする。また、仏教行事のあり方や意味についても学んでいく。
	実施方法	動画視聴 [オンデマンド型・YouTube配信]
	日程	令和2年8月10日(月) 9:00～23:59
受講者数	70人	

選択講習 ③	講習名	発達障害・気がかりな子どもの理解と支援
	認定番号	令02-35141-504155号
	講師	中尾 繁史（本学 幼児教育学科 講師）
	講習の目標・ねらい	発達障害に関する基本的知識を整理するとともに、発達の気がかりな子どもに対する多角的な視点を持つことを目的とする。加えて、そのような子どもたちに対する支援方法にはどのようなものがあるか、それらを実際に応用するためにはどのような視点が必要かについて理解することも目的とする。
	実施方法	動画視聴 [オンデマンド型・YouTube配信]
	日程	令和2年8月28日(金) 9:00～23:59
受講者数	145人	

選 択 講 習	講 習 名	子どもの発達理解
	認定番号	令02-35141-504156号
	講 師	乙部 貴幸（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の 目標・ねらい	乳児期から幼児期にかけての基本的な発達の道筋とそのメカニズムについて理解することを目標とする。具体的には、発達心理学における基礎理論、科学的手法によって明らかにされてきた発達の諸相、発達検査などから得られる行動発達のマイルストーンについて学び、個々の子どもの発達を表面的なエピソードではなく、潜在的な機能の現れとして理解できるようになることを目指す。
	④ 実施方法	動画視聴 [オンデマンド型・YouTube配信]
	日 程	令和2年8月29日（土） 9:00～23:59
	受講者数	116人

選 択 講 習	講 習 名	幼児と人間関係
	認定番号	令02-35141-504157号
	講 師	賞雅 さや子（本学 幼児教育学科 准教授） 江端 佳代（本学 幼児教育学科 講師）
	講習の 目標・ねらい	予測不能な未来を生きる幼児に必要とされる資質・能力の中で、人と関わる力の育ちに焦点を当てて理論的、実践的に考察する。前半で幼児と「人間関係」に関する現状と課題等を整理した後、後半の実践編では事例を通して人と関わる保育者の役割や援助の在り方などを具体的に学ぶ。
	⑤ 実施方法	動画視聴 [オンデマンド型・YouTube配信]
	日 程	令和2年8月31日（月） 9:00～23:59
	受講者数	111人

【後期開講】

必修講習	講習名	教育の最新事情
	認定番号	令02-35141-100542号
	講師	乙部 貴幸 (本学 幼児教育学科 准教授) 賞雅 さや子 (本学 幼児教育学科 准教授) 増田 翼 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	実施方法	動画視聴 [オンデマンド型・YouTube配信]
	日程	令和2年11月1日(日) 9:00~23:59
	受講者数	47人

選択必修講習	講習名	安心安全な園づくりのために(危機管理上の課題と組織的対応の必要性)
	認定番号	令02-35141-301151号
	講師	増田 翼 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の目標・ねらい	目的は、園を取り巻く「危機管理上の課題」および「組織的対応の必要性」について「学校保健安全法」にも触れながら考察することである。具体的には、大規模災害に対する危機管理およびリスクマネジメントについて理解を深めるとともに、園での事故・ケガのリスクを軽減する方策について議論していきたい。また講習全体を通して、「安全安心な園づくり」のために保育者には何が求められるのか、についても考えていきたい。
	実施方法	Zoom (オンライン遠隔会議システム) [同時双方向型]
	日程	令和2年11月3日(火) 9:00~16:10
受講者数	45人	

選択講習	講習名	保育におけるマネジメントとリーダーシップ
	認定番号	令02-35141-504158号
	講師	増田 翼 (本学 幼児教育学科 准教授)
	講習の目標・ねらい	多様化・複雑化する保育現場の現状を踏まえたうえで、保育におけるマネジメントとリーダーシップの理論および意義・役割について理解することを目標とする。具体的には、講習を受講することで、①組織マネジメント、②他職種との協働・連携、③保育の質保証、④保育におけるリーダーシップ、などについて考察するための見方を獲得する。
	実施方法	Zoom (オンライン遠隔会議システム) [同時双方向型]
	日程	令和2年12月5日(土) 9:00~16:10
受講者数	37人	

SOCIUS [ソシアス]
No.15

2021年5月30日 発行

仁愛女子短期大学 総合学務センター 入学・地域支援課

〒910-0124 福井市天池町43-1-1
TEL.0776-56-1133 FAX.0776-56-2922
E-mail jissen@jin-ai.ac.jp



仁愛女子短期大学

総合学務センター 入学・地域支援課